

平成 23 年 3 月 31 日

財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 400 千円	
研究代表者 : 新里泰孝	所属 : 経済学部	職位 : 教授
研究題目 : チューリップ球根生産の経済分析		

【研究概要】

近年、日本のチューリップ球根生産は急激に減少し、ピーク時(1993 年)の約4割(2006 年)になった。そして、チューリップ球根の自給率は2割となっている。これは長期経済停滞による需要減少と、安価なオランダ産球根の輸入増大による。両国の経営条件を比較し、両国のチューリップ球根生産費の特徴を明らかにするために、筆者2009年11月に日本とオランダにおいて球根農家の面接調査を行った。

2010年にはこの調査の整理と分析を行い、8月22日から27日に開催された、国際園芸学会世界大会(ポルトガル・リスボン)において、*Production Cost of Tulip bulbs in Japan and the Netherlands*と題する研究発表を行った。その後、さらに追加調査と分析を加え、論文作成を行っている。

【成果要約】

日本とオランダにおけるチューリップ球根生産費の主な特徴は以下の通りである。(1) オランダで生産されたチューリップ球根の平均価格(7.2 円)は日本で生産された球根(17.2 円)の半分以下である。(2) オランダにおける1ha当たりの生産数量(48.3万球)は日本(22.0万球)の2倍以上である。(3) オランダにおける農場規模は日本の4倍以上である。(調査平均20.6ha、4.4ha)(4) オランダの生産システムは大型のトラクターと機械を用いて機械化されている。オランダの1日当たりの球根作付面積は日本の10倍ほどである。(5) 生産価格に占める固定資本の減価償却費の割合はオランダ(11.7%)が日本(6.4%)よりも大きい。(6) 生産価格に占める農業所得はオランダ(16.5%)の方が日本(23.4%)よりも小さい。

端的に言うと、オランダの球根生産は大型機械を用いた大規模農業である。他方、日本の球根生産は小規模で機械化が進んでいない。この主な理由として日本の農場区画などの技術的側面が言われる。しかし、経営形態・土地利用をみると、農家は稲作、チューリップ球根・切り花生産により通年労働している。収入の大きな割合(37%)を水稻生産から得ている。言わば、米作無くして球根生産は出来ない。したがって、球根生産の規模は水稻の生産決定に大きく依存しているのである。